



藤田 幸男教授近影



## 藤田幸男先生の退職記念号に寄せて

藤田幸男先生は、平成20年3月31日をもって、本学商学部客員教授を退職されました。本来であれば、平成21年度中に、先生の“退職記念号”を発行すべきでしたが、諸般の事情により発行が大変遅れてしまったことを、まずはじめにお詫び申し上げます。

本学商学部は、平成6年に早稲田大学の財務会計領域を率いる重鎮教授であり、世界的に有名な会計学者である藤田先生をお招き致しました。藤田先生の膨大な研究業績と輝かしい経歴についてご紹介したいと思います。あまりにも紙幅に余裕がありません。そこで、その詳細は巻末の「学歴・職歴・主要研究業績」等に譲るとして、ここでは藤田先生のご研究の中心となる考え方についてその概要を簡単に述べさせていただきます。

藤田先生は、会計学の権威、早稲田大学染谷恭次郎教授のご指導を受け、昭和32年に同大学商学部をご卒業、その後昭和37年同大学大学院商学研究科博士課程を修了され、早稲田大学専任講師に就任されました。その後、昭和43年に米国イリノイ大学大学院博士課程を修了され、同大学より博士号(Ph.D)を授与されています。昭和47年に早稲田大学教授に就任され、その後のご経歴は巻末の通りです。先生のご研究の中心は、アメリカの社会学者であるT. パーソンの提唱する社会学的機能主義理論を会計領域に類推的に援用し、会計の社会的機能を明らかにする考え方を示されたことです。先生は、この研究により、米国イリノイ大学より博士号を授与されました。当時、わが国では、会計の技術的側面を重視した議論が中心であって、藤田先生の“会計をひとつの社会システムとして捉え、社会における会計的秩序の形成”を目指した先生の考え方は、きわめて斬新な理論であったとお聞きしました。その後の先生の学会や社会における活動および担われた役職等を拝見すると、先生の理論がいかに社会に受け入れられ、学会等をリードする立場にあったかということが理解できます。このような先生のご研究は、著書、学術論文および書評等を含め多くの業績として公表されました。先生の一連の研究業績は、学会だけではなく、実務界においても高く評価されています。

つぎに、藤田先生の“退職記念号”の趣旨についてご紹介させていただきます。この記念号は、本学商学部の会計関連科目の内容を、藤田先生の薫陶を受けた会計教員が、商学部の学生を対象に、当該科目の内容をわかりやすく解説している点に大きな特徴があります。退職記念号は、一般的に、執筆する先生方の専門領域に関する研究論文が掲載されるのですが、藤田先生は『商学研究』を広く学生の皆さんに読んでいただき、履修計画を立てるときや、履修科目の理解を深めるためのガイドブックとして企画・立案されました。したがって、この記念号は、学生の簿記や財務会計論等の専門科目の学習に資する点で有用であり、学生にとって座右の書となる大変ユニークな“記念号”であると考えます。このような点にも、先生の学生に対するあたたかな心遣いが感じられます。

制度とはいえ、藤田先生が本学を去られてしまったことは、誠に残念であります。私は、平成17年に商学部へ赴任しました。短い間でしたが、幸いにも藤田先生に直接ご指導いただくことができました。先生の教育・研究に取り組まれるお姿を拝見し、また先生の書かれた論文・エッセイ等を読ませていただき、まさに“師”というに相応しい信念をもたれた先生であると感じました。それは、先生が、学問研究に対する“真摯な姿勢”とはいかなることか、また“聖なる教員”としての生き方はどうあるべきか、ということをも身をもって示していただいたからです。私は、先生の教育・研究に携わるお姿こそ、われわれに対する生きたFD教育だったと考えております。われわれは、これを心の糧として、これからの商学部の発展のために実践していけるよう日々努力することをお誓いし、記念号に寄せる言葉とさせていただきます。

平成21年11月30日

愛知学院大学商学会 会長 尾 碯 眞